



寶性

令和五年 第一号 お正月発行



住職 画

令和五年の新春を迎え、謹んで至心に篤い三宝を誦し、併せて檀信徒各位のご平安を祈念申し上げます。
特に本年こそ新型コロナウイルスの終息を御本尊阿弥陀如来様に改めて御祈願致します。

令和五年 初卯歳 元旦
御題「友」

住職	松野 大英
副住職	松野 大樹
筆頭総代	遠山 長昭
法類	総代 一同
寺族	大谷 忍昌
	松野 弘美

修正会

一年の健康と幸せをお守りする修正会ですが、コロナウイルス感染防止のため、念を入れて中止とさせて頂いております。もちろん「心願成就」「家内安全」「無病息災」のご先祖供養「精霊菩提」等々のご祈願は、住職・副住職で「修正会法要」でお勤め致します。

お札・絵馬・御守・交通安全ステッカー・「浄土宗宝暦」は、ご用意しておりますので、ご一報下さい。



絵馬

土鈴

交通安全ステッカー

御札

御守

秋彼岸会でご紹介致しました。月と卯、仏教の「ジャータカ物語」での卯の話は、心温まる物語でした。卯にまつわる物語はたくさんありますが、干支にちなんで「卯と波」をご紹介します。

「卯と波」は、日本の文様にもたくさん絵がかかれています。その由来は、謡曲「竹生島」の一節に由来すると言われています。

「緑樹影沈んで魚木に登る気色あり、月海に浮かんで
は、兎も波を奔るか、面白島の景色や」この謡曲「竹生島」は、醍醐天皇時代の物語。延臣一行が竹生島明神に参拝するために、琵琶湖の湖岸まできたものの、どうやって島まで渡ろうかと思案したところへ、翁と海女の乗る一艘の釣り舟が通りかかり、一行は同乗を許され、竹生島に向うこととなります。その島へ向かう舟から眺めた湖畔の景色を歌ったのが右の一節。

島の緑豊かな木々の影が、湖畔に映り、魚たちが木に登っているように見える。月も湖面に映り魚たちが木に登っているように見える。月も湖面に映り浮かんで、月

に住む兎も波間に映る月明かりを奔けて行くようだ、なんと不思議な景色。

舟が島に到着すると、翁は竜神に、海女は弁財天に変わります。この不思議な体験から、一行は改めて竹生島の神々の靈感あらたなことを思い知らされ「波ウサギ」の由来なのです。

卯と波



嵯峨面

浄土宗特別寺院・京都・清涼寺に伝わる、嵯峨狂言に使われた面を復刻した民芸品です。古い和紙を使い、趣のある面です。客間の壁に飾ってあります。



伏見焼

京都伏見稲荷に伝わる焼物です。現在ただ一軒のみ残る土物の人形です。客間の床の間に飾ってあります。「嵯峨面」ともどもご覧ください。



境内の花



白木蓮



西王母



どうだんつつじ

秋季彼岸会報告

本年も残念ながら秋彼岸会の法要が、皆様と最後までお勤めすることができませんでした。大勢の壇信徒の方々にご参加賜りました。

疫病退散を祈願する寺院から新型コロナウイルスを出すわけにはいきません。慎重に慎重にはこんで参りたいと存じます。

壇信徒各位には多々ご迷惑や、はがゆい思いをおかけいたしますが、何卒ご留意賜りますようお願い申し上げます。



年間行事予定

令和五年度(二〇二三年)

一月 三日(火) 修正会

二月 十五日(水) 涅槃会

三月二十一日(火・祝) 春季彼岸会回向

四月 八日(土) 花まつり

五月二十七日(土) 施餓鬼会

七月 吉日 七夕・蓮見の会(茶室にて抹茶拝服)

七月 十三日(木) 迎え盆

七月 十五日(土) 七月盂蘭盆会回向

十六日(日) 送り盆

八月 十三日(日) 迎え盆・八月盂蘭盆会回向

十六日(水) 送り盆

九月二十三日(土・祝) 秋季彼岸会回向

十二月 吉日 実性寺寄席



毎月五回実性寺茶室にてお稽古しております。(水曜日・土曜日)
お気軽にお遊びにいらして下さい。
見学も自由でございます。

皆具 独楽ツナギ



Jisyoji
Tea ceremony
Classroom

実性寺 茶道教室

1月の稽古



客殿床の間飾り



境内の花

Flowers in the precincts



丸葉



銀杏

●ご法要等のお塔婆を建立される方は、遅くとも十日前迄にお申し込み下さい。お電話よりファックスの方が正確ですのでご利用下さい。

ファックス番号 03(3883)3227

振替口座 00190-6-258873

※振込用紙をご入用の方はお申し出下さい。

〒121-0061 東京都足立区花畑三十七ー十八
電話 03(3883)8866

浄土宗 実性寺

<http://www.jisyoji.com>

